

「秋田県警察の機能強化を考える会（第1回）」開催結果

1 開催日時

平成28年5月23日（月）午後2時30分から午後5時15分までの間

2 開催場所

秋田市山王五丁目9番6号
ふきみ会館

3 出席委員（10名）

小笠原直樹委員、後藤時子委員、小林郷司委員、齊藤靖子委員、田口憲壽委員、能登祐子委員、林良雄委員、土方博生委員、松田悦子委員、山本隆弘委員

4 役員の選出

座長に小笠原直樹委員、座長代行に後藤時子委員を選出した。

5 検討課題

事件・事案の検挙と抑止

6 会議の概要

警察本部から、「秋田県の治安情勢と警察の課題について」及び「事件・事案の検挙と抑止について」説明後、委員による検討を行った。

7 検討結果の概要

○ 県民への情報発信活動

- ・ 刑法犯認知件数といった従前の統計指標では、警察業務が多岐にわたり警察官の業務負担が増加していることが見えない。
- ・ 指標を変え、ストーカー・DV事案への対応や相談対応に要する時間等仕事量を示すほか、懸命な捜査を展開しているが当県でも継続捜査中の重要未解決事件があるなど警察はパーフェクトではないという県警察の実情も県民に情報発信すべき。
- ・ 県警察の実情を理解してもらうことで、県民の協力が得られるとともに、地域の安全・安心という課題について問題意識を持ってもらえるのではないかと。また、自分で自分を守るという意識が強くなるのではないかと。

○ 関係機関・団体等との連携

- ・ 県民の安全・安心の確保は、警察だけで対処するのではなく、自治体、関係機関・団体、地域住民と連携し、社会全体で取り組むべき大きな課題。
- ・ 地域の自治会は生きている。自治会との連携が大事。

- ・ 関係機関が個々別々に対応してしまい問題が大きくなったり、連携がないために事件に発展してしまうのではないか。
- ・ 地域の実情に詳しい高齢者や女性と連携すべき。
- ・ 地域に影響力のある人、発信力のある人と連携すべき。
- 重点的に取り組むべき警察活動
 - ・ ストーカー・DV事案、児童虐待事案への対応など、子供、女性、高齢者といった弱者を守る活動に重点を置くべき。
- 効果的な犯罪抑止対策
 - ・ 犯罪抑止対策を効果的に推進するには、防犯カメラの設置が効果的であるほか、今後はICTを活用した対策も検討すべき。
 - ・ 防犯カメラの設置については、警察予算による設置だけでなく、市町村単位での設置促進、民間企業等で設置のカメラの効果的な活用を検討すべき。
 - ・ プライバシー保護との関係もあり、設置場所の選定に当たっては必要性、公共性などを慎重に判断すべき。
- 地域コミュニティ支援
 - ・ 人口減少・少子高齢化の影響により、地域内の対処力が弱くなっていることから、地域コミュニティの再生が大事。
 - ・ 今後は、駐在所の減少等により警察官が各家庭を一軒一軒回るのは厳しいと思うが、過疎地域に出向いて拠点を設け、住民が相談しやすい環境を作るといった警察官の顔が見える地域コミュニティ支援策を検討すべき。